

忍耐が報われる政治と経営を

Toshi
'11.03.25
SUGITA

甲南大学教授 杉田俊明

地震や洪水、炭鉱事故など、中国も災害の多い国だ。その中国は大災害が起こる度に、よく使われる言葉に、「第一時間」と「不惜一切代価」がある。

「第一時間」とは、事が発生した後でもっとも早く行われる何かを意味する言葉である。責任者は直ちに対策を決め、直ちに応援体制を構築、直ちに現場に派遣、などが例である。

もう一つの「不惜一切代価」とは、一切の対価、コストを無視しても救助などに当たらない

ければならないことを意味する。

大災害に当たって中国のテレビではよくみられるシーンにこのようなものがある。洪水のために川が決壊しそうな時、当局の命令により、軍が「第一時間」に現場に駆け付ける。そして、濁流が決壊口から村や町になだれ込む時、軍人たちが「不惜一切代価」の命令の下で、「国家と人民の利益のために」一斉に川に飛び込み、自らの体で壁をつくり、濁流を止めようとする。不可抗力に勝てず、流され

る者に対して当局はすかさず「烈士」と命名し、英雄として大々的に報道する。

政治的意図からの問題対処ではあるが、リーダーの指示が「第一時間」的だ。また、より多くを救うために、「不惜一切代価」だ。プロパガンダ的な要素が多く、二次被害をもたらすこともあるため、いかにも中国的で日本とは違いはある。

しかし、問題に対する素早い決断は政治も経営も同じである。小手先の対応を重ねても、

結果的により多くのコストを払う羽目になる。初動段階における徹底的な対応、つまり、災害の延伸や二次的被害を食い止める具体的な対応が求められる。

いま、大地震と津波が日本を襲い、多くの人命が失われている中で、原発の事故によって引き起こされた新たな混乱が、国民の生活と共に、復興に影響を与えている。

災害に接する日本の国民が示

す忍耐と冷静さ、そして、それらに担保される秩序は世界から評価されている。しかし、国民の忍耐と協力に対してリーダーが応え、迅速かつ、適切、効果的な判断を行ってきたのか。

経営側も原発現場を正確に把握できず、迅速な原因解明と事態に即応する対策が見えないから、国民の不安も増幅される。対応が遅れると、被害がさらに大きくなる恐れもある。

国民は褒めてもらうために耐えているのではなく、忍耐が報われる政治と経営を望んでいるのである。

